

**「新しい東北」官民連携推進協議会
令和7年度 第二回意見交換会**

福島県

9月18日

株式会社JTBCコミュニケーションデザイン

1. 学生との実行委員会の実施報告
2. 取材対象者について
3. 実践の場（フィールドワーク）実施概要
4. 3県合同セミナー
5. 「新しい東北」官民連携推進協議会の今後の体制について

● 1. 学生との実行委員会の実施報告

(1) 実施概要

○第1回実行委員会 7月11日、 第2回実行委員会 8月8日

※各回、参加学生欠席時は個別にフォローアップを実施

○参加メンバー

大学名	学部名・専攻	学年	出身地 (都道府県)
宮城学院女子大学	現代ビジネス学部	3年生	宮城県
立命館大学	理工学部機械工学科	4年生	広島県
福島大学	経済経営学類	3年生	東京都
長崎大学	医学部医学科	5年生	長崎県
福島大学	行政政策学類	4年生	青森県
岡山大学	法学部	4年生	香川県
淑徳大学	地域創生学部地域創生学科	3年生	福島県
福島大学大学院	地域デザイン科学研究科 人間文化専攻 スポーツ芸術文化コース	1年生	北海道

○主な議題

- ①取材チーム分け
- ②取材対象者の絞り込み
- ③取材テーマ、内容の検討

● 1. 学生との実行委員会の実施報告

(2) 主な意見

○「ふるさと」への多様な価値観

- 地元を離れて初めて気づく「ふるさと」の良さや、帰ったときに話せる人がいる場所をふるさとと捉える声が多く見られた。
- 生まれた場所だけでなく、人との関係や思い出がある場所も“ふるさと”と認識する傾向があった。

○映像制作への意欲と自律性

- 自ら取材先を推薦し、取材テーマ（起業・Uターン・女性活躍など）を具体的に提案するなど、主体的に取り組む姿勢が顕著。
- 発表の場（合同セミナー）も見据え、「伝え方」や「伝承の意義」を強く意識していた。

○視察方法の見直し提案

- 従来の“多箇所詰め込み型”ではなく、“少数箇所での対話重視”に改善すべきという提案があり、全体で共有・採用された。
- 記録ではなく「語ること・聞くこと」の重要性を重視する意識が明確。

○学生募集における創意工夫

- SNS（特にInstagram）に加え、参加者の紹介や個別の声かけが効果的という認識。
- 昨年度参加者の体験談を使ったりレー形式の広報提案もあり、実効性のある発信が意識されていた。

● 1. 学生との実行委員会の実施報告

○若者世代の「震災伝承」の捉え方

- 震災を知らない・経験していない世代として、“伝承される側”から“伝える側”へ意識を切り替える姿勢が見られた。
- 一方的な学びではなく、対話的・関係性重視のアプローチを望む声が多い。

(3) まとめ

- **ふるさとの定義に多様性**：地元だけでなく、人とのつながりや思い出のある場所を「ふるさと」と捉える声が多い。
- **主体的な取材と発信への意欲**：取材先の推薦やテーマ設定に積極的にに関わり、映像制作に強い関心を示している。
- **視察の質へのこだわり**：詰め込み型ではなく、対話を重視した視察スタイルへの改善を学生から提案・合意。
- **募集方法の工夫と実効性重視**：SNS発信だけでなく、参加経験者の紹介や大学内ネットワークを活用した広報が効果的との意見。
- **震災伝承の役割意識**：経験のない若者世代が“伝える側”として関わる意識を持ち、対話的な伝承の重要性を認識。

● 1. 学生との実行委員会の実施報告

(4) 実施概要

○第3回実行委員会 9月9日

※各回、参加学生欠席時は個別にフォローアップを実施

①主な意見

- ・日程が詰め込みすぎであり、学生が「最終的に何をしたかったのか」が見えにくいとの指摘あり。
- ・初日は過去を学び、二日目は未来に向けた取組を見る、三日目は震災当日の記憶を直視する流れとなり、心情的にどうまとめるか不安との声があった。
- ・中間貯蔵施設への訪問は「一度は見るべき」との意見と「他の訪問先で十分」との意見に分かれた。インタビューに時間を割くため、過密なスケジュールには反対との意見もあった。
- ・1日あたりの取材件数は2件が限界との意見があり、日程配分を調整すべきとの合意があった。
- ・インタビューは「構えて行う」よりも、リラックスした時間の自然なやりとりを重視すべきとの提案があった。

②まとめ

- 学生の学びを中心に据えたスケジュールにすることが重要である。
- 訪問先やインタビューは数を追うよりも、内容の深さを確保することを優先すべきである。
- 取材の成果をどうまとめ、最終的に「学生の学び」として発表につなげるかを意識する必要がある。
- 予定は柔軟に調整しつつ、体験・対話・振り返りを通じて震災の記憶と未来への展望を結び付ける構成とする。
- 学生募集について、参加人数を増やすために、各学生への協力依頼を行った。

● 2. 取材対象者

(1) 取材先の承認状況 福島県で活躍する女性からふるさと愛について探究

学生 希望者・ 推薦者	日程	推薦する人	年齢	性別	推薦理由
運営 委員会	10/12 AM	おおくままちづくり公社	20代	女性	富岡出身。震災、原発事故で人口が減る中、新たな交流の場を作ろうと「双葉郡大運動会」を企画しており面白いと思い推薦。
運営 委員会	10/12 PM	任意団体「なみとも」代表 いわき双葉の子育て応援コミュニティ 「cotohana(コトハナ)」共同代表	30代	女性	田村市出身で、企業勤めを経て2013年に田村市復興応援隊に就任。2017年に浪江町に移住し、2018年には団体を立ち上げた。イベントの開催や地域活動のサポートを通して、震災前の賑わいを取り戻すために尽力している。
運営 委員会	10/13 AM	図図倉庫(ズットソウコ)	30代	女性	運営委員会メンバーから、過年の「ふくしま愛プロジェクト」で訪問できなかったため、今回ぜひ訪問したいとの希望が寄せられている。図図倉庫は飯舘村や浜通りに関心ある個人・教育関係者・企業向けにツアーを企画し、環境、文化、歴史、放射線、アート等を学ぶ場を提供している。

※取材対象者は調整中で、変更の可能性あり。

● 2. 取材対象者

(1) 取材先の承認状況 福島県で自分らしく生きる地元回帰について探究

学生 希望者・ 推薦者	日程	推薦する人	年齢	性別	推薦理由
運営 委員会	10/12 AM	浅野燃糸 管内案内スタッフ	20代	女性	2023年に福島・双葉町に30億円を投じた複合施設「フタバスーパーゼロミル」を設立し、雇用創出と復興を両立させる挑戦を続けている。取材対象者は、地元出身。ガイアの夜明けにも出演。
運営 委員会	10/12 PM	カフェ&ギャラリー秋風舎 店主	30代	女性	川内村出身。村外で暮らしていた高校1年時に震災が発生し、鎌倉市へ避難。その後、大学進学と中退を経て2017年に帰村し、詩人草野心平ゆかりの天山文庫管理人に。同時にメディア取材等を通じ、村の状況を発信。若手起業家への支援を受け、2023年には古民家カフェを開業。
運営 委員会	10/13 AM	おかしなお菓子屋さんLiebe(リーベ)	30代	女性	横須賀直生氏は、若い子達が大好きで学ぶ意欲がある子達になんでも教えてくれる方なので面白いと思い坂田氏からも推薦。若者や子どもたちに学ぶ意欲を引き出す力を持ち、お菓子づくりを通じて地域に喜びと学びを届けている。世代を超えた交流を生み出す活動は学生にとって貴重な学習機会である。

※取材対象者は調整中で、変更の可能性あり。

● 2. 取材対象者

(1) 取材先の承認状況 福島県への未来に投資地元での生業について探究

学生 希望者・ 推薦者	日程	推薦する人	年齢	性別	推薦理由
運営 委員会	10/12 AM	PwC Japan有限責任監査法人	30代	男性	浪江町出身、Uターンし独立を検討。浪江駅西側再整備事業共創会議メンバー。
運営 委員会	10/12 PM	東日本大震災・原子力災害伝承館職員	20代	女性	浪江町生まれ。震災前から請戸地区の伝統芸能「請戸の田植踊」の伝承に携わっている。請戸小学校の6年生の時に東日本大震災で被災。東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い避難先の郡山市で高校卒業まで過ごした後、宮城県の大学に進学して心理学を専攻。大学卒業後に東日本大震災・原子力災害伝承館のスタッフとなり、語り部として活動続ける。
運営 委員会	10/13 AM	田舎レストラン La Kasse	30代	男性	飯舘村出身。地元でのレストラン開業は、10代で料理人になった時からずっと抱いていた夢。育った村に恩返しをしたいという一心で、村を離れ約10年ほどイタリアンやフレンチの店にて修行を積む。2022年6月、飯舘村に帰り『田舎レストラン La Kasse』をオープン。

※取材対象者は調整中で、変更の可能性あり。

● 3. 実践の場（フィールドワーク）実施概要

10月11日(土)～13日(月・祝) 未来への架け橋フィールドワーク3コース

福島県で活躍する女性から
ふるさと愛について探究

福島県で自分らしく生きる
地元回帰について探究

福島県への未来に投資
地元での生業について探究

10月11日(土)

9:00 JR福島駅 集合

9:00 JR福島駅 集合

9:00 JR福島駅 集合

共通
コース

オリエンテーション

バス

レクチャー①

東日本大震災・原子力災害伝承館
震災の記録と教訓を学ぶ

徒歩

レストランF
昼食

バス

バス

震災遺構 浪江町立請戸小学校
自然災害のリアルと教訓を学ぶ

バス

東京電力廃炉資料館
事故の教訓や廃炉進捗状況等について学ぶ

バス

宿泊: いこいの村なみえ

10月12日(日)

9:00 各チームに分かれて取材活動(バス移動)

■〈大熊町〉おおくままちづくり公社

大熊町復興支援員としてコミュニティづくりを担当

■〈浪江町〉任意団体「なみとも」代表 いわき双葉の子育て

応援コミュニティ「cotohana(コトハナ)」

震災前の賑わいを取り戻すために活動

宿泊: Jヴィレッジ

9:00 各チームに分かれて取材活動(バス移動)

■〈双葉町〉浅野燃糸

地域の復興を担って、工場を稼働中

■〈川内村〉カフェ&ギャラリー秋風舎

若手起業家への支援を受け古民家カフェを開設

宿泊: Jヴィレッジ

9:00 各チームに分かれて取材活動(バス移動)

■〈浪江町〉PwC Japan有限責任監査法人

浪江駅西側再整備事業共創会議メンバー

■〈双葉町〉東日本大震災・原子力災害伝承館

東日本大震災・原子力災害伝承館のスタッフ、語り部として活動

宿泊: Jヴィレッジ

10月13日(月・祝)

9:00 出発(バス移動)

■〈飯舘村〉図図倉庫(ズットソウコ)

いいいたてフィールドミュージアムで環境世界を学ぶ

15:00 JR福島駅 解散

9:00 出発(バス移動)

■〈楡葉町〉おかしなお菓子屋さんLiebe(リーベ)

楡葉町の発展のために活動

15:00 JR福島駅 解散

9:00 出発(バス移動)

■〈南相馬市〉紅梅夢ファーム

農業の魅力発信

15:00 JR福島駅 解散

※取材先については取材箇所、人数が都合により変更となる場合がございます。

● 3. 実践の場（フィールドワーク）実施概要

福島県で活躍する女性から ふるさと愛について探究

取材対象

場所

日時

注意：取材対象者1名につき、3問の質問。各チームは、共通・ふるさと愛・チームテーマから1つずつ質問を担当してください。

区分	質問内容(例)	インタビュー内容	自分の表現・工夫(メモ)	担当者(氏名)
共通1	震災当時の状況と心境を教えてください。			
共通2	復興の過程で、一番大切にしてきたことは何ですか。			
共通3	支えてくれた人・出来事で印象に残っていることは？			
共通4	「当時の自分」に今だから伝えたいことは？			
共通5	学生世代にどんなメッセージを伝えたいですか。			
共通その他				
ふるさと愛1	あなたにとって「ふるさと愛」とは何ですか。			
ふるさと愛2	福島魅力を一言で表すと？			
ふるさと愛3	復興の経験を通じて地域への考え方は変わりましたか。			
ふるさと愛4	将来の福島をどんな姿にしたいですか。			
ふるさと愛5	震災の経験を踏まえて「ふるさと愛」を次世代にどう伝えたいですか。			
ふるさと愛その他				
チームA(女性) 質問1	女性が地域で活躍する上で大切にしていることは何ですか。			
チームA(女性) 質問2	女性ならではの視点が地域にどう活かされていますか。			
チームA(女性) 質問3	活動を続けるモチベーションは何ですか。			
チームA(女性) 質問4	次世代の女性へのメッセージをお願いします。			
チームA(女性) 質問5	震災を経て「女性の役割」について変化はありましたか。			
チームA(女性) その他				

● 3. 実践の場（フィールドワーク）実施概要

福島県への未来に投資 地元での生業について探究

取材対象

場所

日時

注意:取材対象者1名につき、3問の質問。各チームは、共通・ふるさと愛・チームテーマから1つずつ質問を担当してください。

区分	質問内容(例)	インタビュー内容	自分の表現・工夫(メモ)	担当者(氏名)
共通1	震災当時の状況と心境を教えてください。			
共通2	復興の過程で、一番大切にしてきたことは何ですか。			
共通3	支えてくれた人・出来事で印象に残っていることは？			
共通4	「当時の自分」に今だから伝えたいことは？			
共通5	学生世代にどんなメッセージを伝えたいですか。			
共通その他				
ふるさと愛1	あなたにとって「ふるさと愛」とは何ですか。			
ふるさと愛2	福島魅力を一言で表すと？			
ふるさと愛3	復興の経験を通じて地域への考え方は変わりましたか。			
ふるさと愛4	将来の福島をどんな姿にしたいですか。			
ふるさと愛5	震災の経験を踏まえて「ふるさと愛」を次世代にどう伝えたいですか。			
ふるさと愛その他				
チームC(生業・未来投資) 質問1	地元での生業を続ける上で大切にしていることは？			
チームC(生業・未来投資) 質問2	復興と経済活動を両立する上での工夫は？			
チームC(生業・未来投資) 質問3	地元での事業に未来を感じる瞬間は？			
チームC(生業・未来投資) 質問4	新しい挑戦や投資を考えていることは？			
チームC(生業・未来投資) 質問5	震災後の経験が生業や事業にどう影響しましたか。			
チームC(生業・未来投資) その他				

● 3. 実践の場（フィールドワーク）実施概要

福島県で自分らしく生きる 地元回帰について探究

取材対象

場所

日時

注意:取材対象者1名につき、3問の質問。各チームは、共通・ふるさと愛・チームテーマから1つずつ質問を担当してください。

区分	質問内容(例)	インタビュー内容	自分の表現・工夫(メモ)	担当者(氏名)
共通1	震災当時の状況と心境を教えてください。			
共通2	復興の過程で、一番大切にしてきたことは何ですか。			
共通3	支えてくれた人・出来事で印象に残っていることは？			
共通4	「当時の自分」に今だから伝えたいことは？			
共通5	学生世代にどんなメッセージを伝えたいですか。			
共通その他				
ふるさと愛1	あなたにとって「ふるさと愛」とは何ですか。			
ふるさと愛2	福島魅力を一言で表すと？			
ふるさと愛3	復興の経験を通じて地域への考え方は変わりましたか。			
ふるさと愛4	将来の福島をどんな姿にしたいですか。			
ふるさと愛5	震災の経験を踏まえて「ふるさと愛」を次世代にどう伝えたいですか。			
ふるさと愛その他				
チームB(地元回帰) 質問1	地元に戻る決断をした理由は何ですか。			
チームB(地元回帰) 質問2	地元で暮らす魅力と課題を教えてください。			
チームB(地元回帰) 質問3	若者が地元に戻るために必要な支援は？			
チームB(地元回帰) 質問4	地元に戻ってよかったと感じる瞬間は？			
チームB(地元回帰) 質問5	震災後、地元回帰への考え方に変化はありましたか。			
チームC(生業・未来投資) その他				

● 3. 実践の場（フィールドワーク）実施概要

（1）取材内容について

基本構成

1グループ（6名）で「5分程度」のインタビューしてもらいます。
各チームそれぞれ独自のテーマ・視点・登場人物で切り口を設定します。

制作された3本の中から、特に優れた視点・表現力・共感性を備えた映像を各県1本を選出、石川県・金沢大学と共催予定の「能登復興×東北の若者」交流セミナーにて上映・発表を行います。

選定目的

金沢での上映・発表という「リアルな場」が提供され、他県・他大学の学生、地域関係者との対話と共感の機会を得られます。また自分たちの作品が、誰かの心を動かす力を持っていると実感できるはずです

選出のポイント（例）

・震災経験を普遍的な学びに昇華しているか・伝える力／構成・編集の工夫があるか・「他地域にも共有したい」と思わせる視点があるか等

公開予定

3本すべてが価値あるものです。全ての作品は、他会場（例：復興庁セミナー、ウェブ公開、SNS）で発信される予定です。
能登発表に選ばれるかどうかではなく、**全員が伝える責任者である**という意識でワークショップに取り組んでもらいます。

映像スタッフの同行体制について（進行については、進行管理1名と撮影スタッフ1名の計2名が同行）

各チームにカメラマンが同行します。事前準備としてマイクをつけて頂き、リハーサルを含めた打ち合わせを行ってから撮影となります。
視聴者にわかりやすく伝えるため以下の順番で撮影していきます。

取材趣旨説明 自己紹介

インタビュアー自己紹介
インタビュー趣旨説明
取材の理由や学びたい事

取材者対象者紹介

インタビュアーが紹介する
もしくは、
取材対象者が自己紹介

質疑応答風景

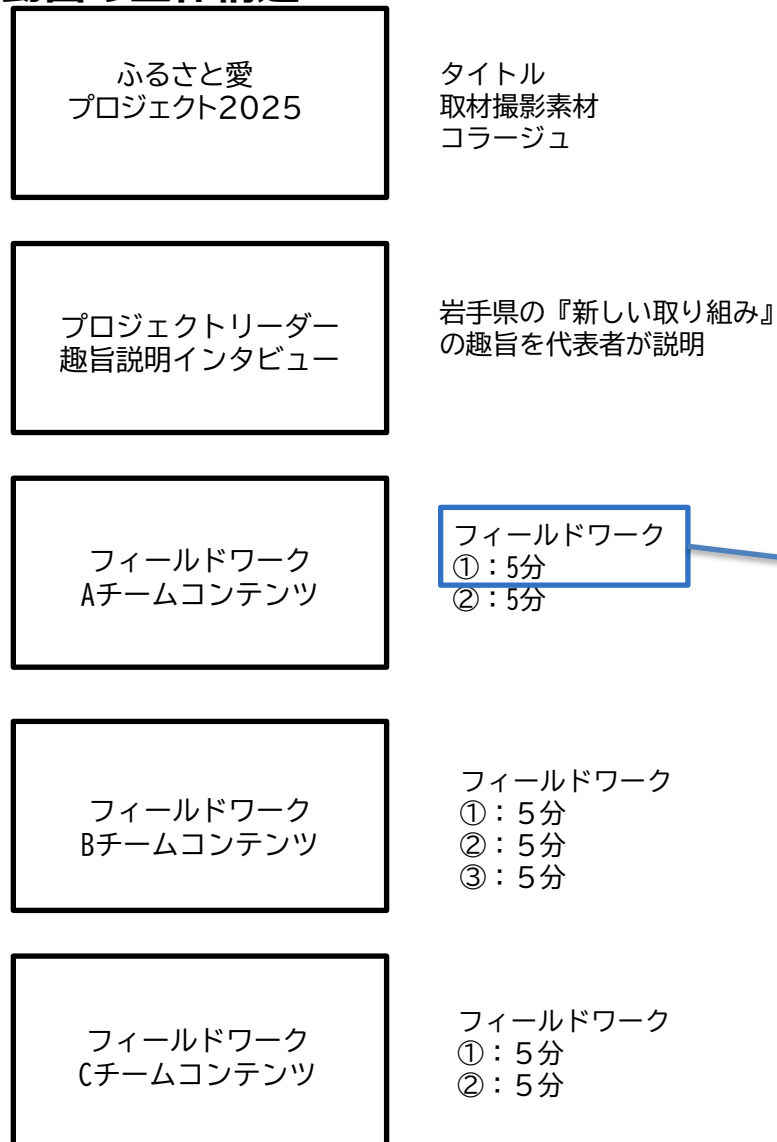
インタビュアーと取材者
対象者のやり取り風景

まとめ

インタビューを終えての
感想や学びについて

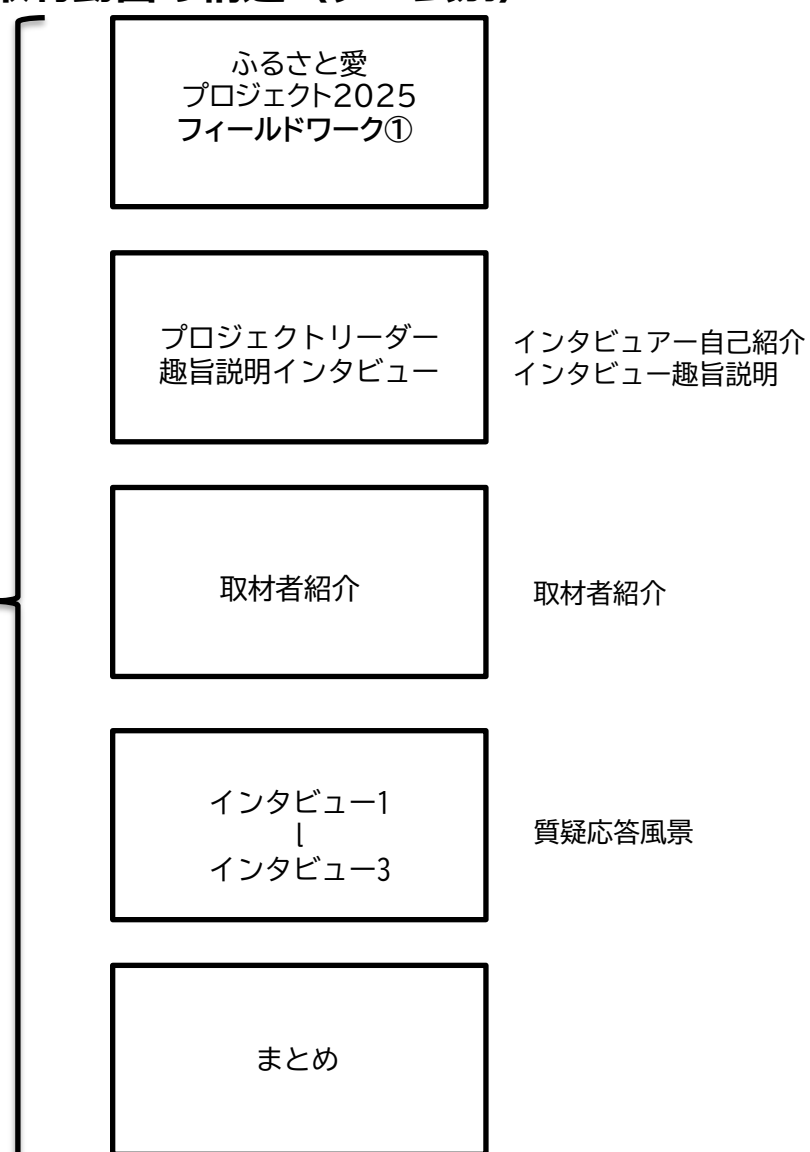
● 3. 実践の場実施概要

動画の全体構造



総時間：約25分

取材動画の構造〈チーム別〉



総時間：約5分

● 3. 実践の場（フィールドワーク）実施概要

（3）実践の場（フィールドワーク）参加者について

■ 実行委員会から参加の学生

福島県で活躍する女性からふるさと愛について探究チーム

大学名	学部名・専攻	学年	出身地 (都道府県)
長崎大学	医学部医学科	5年生	長崎県
福島大学大学院	地域デザイン科学研究科 人間文化専攻 スポーツ芸術文化コース	1年生	北海道

福島県で自分らしく生きる地元回帰について探究チーム

大学名	学部名・専攻	学年	出身地 (都道府県)
福島大学	行政政策学類	4年生	青森県
立命館大学	理工学部機械工学科	4年生	広島県

福島県への未来に投資地元での生業について探究チーム

大学名	学部名・専攻	学年	出身地 (都道府県)
岡山大学	法学部	4年生	香川県
宮城学院女子大学	現代ビジネス学部	3年生	宮城県
福島大学	経済経営学類	3年生	東京都

● 3. 実践の場（フィールドワーク）実施概要

（3）実践の場（フィールドワーク）参加者について

■ フィールドワークから参加の学生

No	大学名	学部名・専攻	学年	出身地 (都道府県)
1	宮城学院女子大学	現代ビジネス学部	3年生	宮城県
2	金沢大学	融合学域先導学類	1年生	新潟県
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				

● 3. 実践の場（フィールドワーク）実施概要

（4）アウトプット（広報）について

●広報①

◆ふるさと愛プロジェクト実施(10/11・12・13 2泊3日):学生参加

- ・ デフリンピック サッカー競技での世界に向けた発信内容の検討

◆動画公開(11月)

- ・ Jヴィレッジで開催される「デフリンピック サッカー競技」を活用し、世界に向けた発信(※発信法は調整中)

●ニュースリリースからの広報

- ・テレビ岩手、宮城テレビ、福島中央テレビ、※実践の場（フィールドワーク）時の動画素材を提供
→報道への仕込み。

さらに県庁協力のもと、県政記者クラブへのリリース投げ込み、県内メディア取材対応を実施する。

● 4. 3県合同セミナー

(1) 実施概要

復興から14年、東北3県で培った官民連携の知見と、復興の途上にある能登地域の現状や課題を共有し、対話を通じて今後の地域間連携のあり方を共に考える機会とする。

つながりのその先へ～震災の教訓を共有し、復興の知恵を次世代へ～

- 日時:2025年12月20日・13:30～16:30
- 会場: 石川県地場産業振興センター
- 方式:現地参加(関係者)+動画配信(※リアルタイム配信)
- 共催:各県関連団体、金沢大学様
- 連携先:能登官民復興支援センター
- 協力:副代表団体、実践の場に参加した高校生・大学生

■ プログラム構成

第1部-①:「官民連携推進協議会の取組について」

内容:岩手・宮城・福島各副代表団体(大学)による講演(各10分)

講演テーマ例:

「能登地域の復興の現状と課題」(金沢大学様予定)

「災後の地域に大学はいかに関わり得るか ― 陸前高田での実践を通して考える ―」(岩手)(岩手大学五味先生)

「エリアマネジメントと復興支援」(東北大学 姥浦先生)

「ふるさと愛をテーマに据えた取組について」(福島大学 藤室先生)

第1部-②:「能登×東北 対話の時間」

内容:能登側(大学、県庁、連復、銀行などの民間企業)と東北(第一部参加先生)によるトークセッション(30分)

テーマ例:「地域間連携のあり方」「復興初期段階の官民協働とは」

進行:後藤氏(ファシリテーター)

第2部-「若者たちのメッセージ」

内容:3県「実践の場」で制作した映像の放映+参加学生による感想発表・能登の参加学生(金沢大学・輪島高校など)からの発表(45分)

<交流セッション>

3県の参加学生(各地域2～3名※宮城県は多賀城高校)

金沢大学フィールドワーク参加者3名。輪島高校とのグループ対話(45分)

テーマ例:

・「私たちが地域のためにできること」

・「復興における若者の役割」

・「地域に住み続ける・戻る理由、離れる理由」

・「風化防止、SNS・映像を通じた復興の発信」

※参加する学生同士の交流として、「同じ現場に立つ体験」など、形式的な登壇に留まらない「共に過ごす時間」を設ける工夫を行う。

● 4. 3県合同セミナー

(2) 当日スケジュール

時間	プログラム内容
13:00	開場・受付開始
13:30	開会挨拶:「新しい東北」官民連携推進協議会 代表
13:40	第1部①:官民連携推進協議会の取組について 副代表大学(岩手・宮城・福島)による講演(各10分) 【講演テーマ例】 ・金沢大学:(調整中)「能登地域の復興の現状と課題」 ・岩手大学:(五味先生)「地域と大学の連携による復興知の蓄積」 ・東北大学:(姥浦先生)「エリアマネジメントと復興支援」 ・福島大学:(藤室先生)「ふるさと愛をテーマに据えた取組について」
14:20	第1部②:能登×東北 対話の時間(30分) 金沢大学・東北3県・自治体・企業等によるトークセッション 【テーマ例】 ・地域間連携のあり方 ・復興初期段階の官民協働とは
14:50	休憩(10分)
15:00	第2部:若者たちのメッセージ(45分) (1)実践の場 映像上映(5分×3県) (2)学生発表(3県+能登) (3)交流セッション(学生同士の対話) 【例】 ・私たちが地域のためにできること ・復興における若者の役割 ・地域に住み続ける／離れる理由
16:30	閉会挨拶:「新しい東北」官民連携推進協議会 関係者
16:30	終了

【会場案内(予定)】

・場所:石川県産業創出支援機構(ISICO)
石川県地場産業振興センター
第1研修室と同フロアの第7会議室

・所在地:〒920-8203
石川県金沢市鞍月2丁目1番地

・アクセス:金沢駅西口より
バス「工業試験場」下車 徒歩3分
タクシー約15分

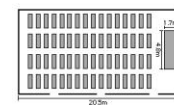
第1研修室

本館2階 定員192名(3人掛)

演出(1) 司会台(1) 有線マイク(2)
ワイヤレスマイク(2) ビンマイク(1) 録音可
備付スクリーン(3m40cm×2m50cm)
壁コンセント(100V20A 1回路)
床コンセント(100V20A 1回路)



第1研修室 机・椅子の写真はこちら



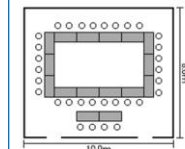
本館2F

第2会議室

本館2階 定員32名

ポータブルワイヤレス(2)
壁・床コンセント共通(100V20A 1回路)

第2会議室 机・椅子の写真はこちら



● 「新しい東北」官民連携推進協議会の今後の体制について

【「新しい東北」官民連携推進協議会の見直しについて】

- ✓ 令和8年度から、「新しい東北」復興ノウハウ連携協議会へ名称変更。
- ✓ 現行の代表団体、副代表団体の枠組みはそのまま残す。
- ✓ 令和8年度からは、協議会運営を復興庁直営で行う。
- ✓ 「実践の場」等イベントは、福島県分の予算が認められている。
- ✓ 年1回程度、情報共有の場、福島県の取組の発表の場として、運営委員会を開催する。
- ✓ (令和7年度中)新しい東北HPは、復興庁HPに移行。

<改正案>

(目的)

第二条 協議会は、東日本大震災からの復興の加速化を図るとともに、復興を契機に、人口減少、高齢化、産業の空洞化等の地域の抱える課題を克服し、我が国や世界のモデルとなる創造と可能性の地としての「新しい東北」の創造に向けたこれまでの取組を通じて蓄積されたノウハウを、地方創生の取組のモデルケースとして、被災地内外に普及展開するため、多様な主体が連携して情報の共有や交換を行うことを目的とする。

【今後のスケジュール】

- ① 本日の意見交換会にて、名称変更のための要綱等改正案の提示
- ② 3月予定の運営委員会にて、決定